

平成29年度学校自己評価システムシート（県立大宮高等学校）

目指す学校像	勉強と部活動等の両立の実践と自主自律の精神の涵養により、 高い志と強い使命感を持ったトップリーダーを育成する学校
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と創造性を備えた人材を育成する。 2 学力の向上を図り、生徒の第一志望の進路を実現する。 3 安心して通える学校づくりと積極的な情報公開により、県民の期待や信頼に応える。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	本校生は総じて素直であり、学習や部活動に熱心に取り組む、充実した学校生活を送っている。しかし、大学進学を叶えるだけでなく、社会人として生活していくことを考え、人間性、創造性の伸長を目標とし、在り方生き方の探究と、対人関係能力・自己管理能力の向上を目標とした。 学校関係者評価において、自分が発信するだけでなく傾聴する力や他者の意見を自己の考えに包摂できるような能力の伸長について提起頂いたところであり、以上も踏まえ右記について取り組む。	①多様な価値観やモデルに触れて、自己の在り方生き方を探究する ②対人関係をよりよく構築できる能力を向上させ、自己管理能力を向上させる	ア 講演会や総合的な学習の時間とおして多様な価値観やモデルを提示し、生徒個々の変容・刷新を促す イ 県事業「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」「県立学校グローバルリーダー育成塾」「サイエンスアカデミー」を活用する ウ 文化祭等の生徒会主催行事や部活動また、国際交流活動等とおして、コミュニケーション能力を向上させる エ 学校生活全般において、時間、物、信用を主体的に管理させ、質の高い校環境を保持する	ア 運営主体である分掌等が取り組み、生徒の自己評価等をもとにして達成したと評価できたか イ 県事業に延べ50名以上の生徒の参加希望があったか 自己の変容・刷新に対して肯定的回答が80%を超えたか ウ 生徒会指導部、国際理解教育推進委員会が取り組み、生徒の自己評価等をもとにして達成したと評価できたか エ 生徒指導部、各学年が取り組み、学校環境の保持を達成したと評価できたか	ほぼ達成 ア 1学年では10/17に卒業生43名を招致し「世界を広げるプロジェクト」を実施、また2学年では2/23に卒業生37名を招致し「懇親懇話会」を実施して生徒の郷土意識の向上を図った。 総合的な学習の時間において、「批判的思考力・論理的表現力」を高めるプログラムを開発・実施し、生徒の変容を促した。 イ 今年度開始した「科学技術立県を支える次世代人材育成プロジェクト」をはじめ県教委主催の事業に63名が参加を希望し、45名が参加した。 ほぼ達成 ウ 7月にドイツ姉妹校への派遣事業を実施、着実な交流が行われた。また、5/30台湾彰化中学校との交流事業を実施。1・2年生は、ほぼ全クラスで生徒同士の交流が行われた。さらに、インドからの男子留学生が5月から1月末まで存在、クラスや部活動を通して、交流を行った。 エ 生徒指導部を中心に生徒自身が時間・物・信用等の管理を適宜行った。清潔活動も地道に行い、生活環境を保持した。	A 今年度本校高大接続検討チームが発案した「批判的思考力・論理的表現力」を高めるプログラムを改良しながら実施、また、引き続き、県教育委員会主催の事業、本校の卒業生の力なども活用して、生徒の変容を促し続ける。 A 生徒会行事や部活動、また、平成8年から続けているドイツ姉妹校との交流事業の実施(受入れ)、及び留学生を受入れることによりコミュニケーション能力の向上を図る。
2	本校はこれまで大学進学実績や、入学者選抜における倍率の高さなどで県民の期待を集め、応えてきた。 高大接続検討チームを校内に立ち上げたこともあり、国の動向や学校関係者評価の指摘を踏まえさらに学力向上の取組を充実させ、教科指導では主体的・対話的で深い学びを促進する。 これまで本校が取り組んできた進路指導は、学校関係者評価や県民から高評価を得ているので、さらに効果向上をねらい取組を続ける。	①教科指導力の向上を続ける ②系統的な進路指導と個に応じた進路指導を両立させる	ア 教員相互の授業見学を進めるとともに各種セミナーに参加して、最新の指導技術や入試動向を取り入れ、教科指導に反映させる イ 各教員は主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を導入し、授業内に生徒間の相互作用の場を確保する ウ 3年間の計画や状況を踏まえ、進路講話や講習を実施する エ 生徒理解に基づき、実情に即した面談・個別指導を丁寧と繰り返す	ア 各種セミナー参加教員が延べ50名を超えたか、また、参加教員が研修内容を教科指導に反映した割合が90%を超えたか イ 各教員が自己評価シートに記載し、達成度b以上が90%を超えたか ウエ 進路指導部が取り組み、大学進学状況や生徒の自己評価等をもとにして達成したと評価できたか	概ね達成 ア 各種セミナーへの参加者数は1/11現在延べ42名、年度末では50名を超える見込み、参加したすべての教員がセミナーでの研修成果を授業・受講指導に反映した。 イ 主体的・対話的で深い学びに関しては、時間的制約のあるなかで多くの教員が取り組み始めている。取り組んでいる教員は達成感を感じ、生徒からの評判も良い。 概ね達成 ウエ 生徒の進路希望・実情に応じて、授業・講習・個別指導等を実施した。センター試験で別件と同様の結果となり、東京大学の推薦入試で1名が合格した。 3年間の進路指導の見直しは現在進行中である。また、大学入学共通テスト導入に向け、今年度新たにエンパワーメントプログラム(志を育む3日間の活動)を冬休業中に実施し1・2年生生徒52名が参加した。	B 冊子『難関大入試分析』の作成を始め、難関国公立大学や著名私立大学の入学試験問題の研究を続け、個々の教員の指導力を高める。 B 進行している大学入試改革に対応し、次年度も、3年間の進路計画の見直しも含め、改革を進めることにより、引き続き、生徒の希望進路の実現を目指す。
3	平成29年度入学者選抜でも高倍率を保つことができた。今後は高倍率を保ちつつ、入学後の学校生活により円滑に移行できるよう、生徒募集活動では本校のアピールのみならず、在校生に求めることにも触れ、入学後の心構えを早期に獲得させる。 広報に関しては、学校説明会、アウトリーチ活動とHPを主な手段とし、本校生の学校生活がありありと伝わるよう、また、本校の求める生徒像が伝わるように努める。	①入学後のより円滑な学校生活への移行をもねらった生徒募集を行う ②本校HPにより情報を紹介し、安心して通える学校づくりを進める	ア 学校説明会等の本校の行事や関係各機関に対するアウトリーチ活動を積極的に活用して生徒募集を充実させる。 イ 本校の魅力とともに生徒に求める姿勢を発信して、生徒募集に留まらず入学後のより円滑な学校生活への移行につなげる ウ 本校HPを活用して、行事、部活動等平素の教育活動を紹介する エ 本校HPを活用して緊急時の対応策や安全課題に対する注意喚起等により学校の基本姿勢を明らかにする	アイ 教務部が取り組み、参加者数や参加者アンケート、関係各機関からの聴取により、達成したと評価できたか ウエ 教務部が取り組み、更新回数や保護者アンケートをもとにして達成したと評価できたか	ほぼ達成 アイ 10/7, 11/18の学説明会に計約2,000名、10/21理数説明会約500名の生徒保護者が参加、2/21新聞発表による本校への入学志願状況では、普通科1.52倍、理数科2.3倍であった。 また、学説明会参加者のアンケートの結果も概ね好評であった。 1/27, 2/10にも、中学1・2年向けの説明会を実施し、次年度への生徒募集へもつなげる。 概ね達成 ウエ 学校全体の行事に関しては、広報を行っていたが、部活動に関しては、各部活動の顧問に任せているところがあった。 また、緊急時の対応策に関しては、必要十分な情報発信ができたと考えられているが、保護者アンケートの結果では、若干評価が低かった。	A 引き続き学校説明会等の行事を計画的に実施することや、外部教育機関の進路相談会を活用し、本校の魅力を発信し続け、着実な生徒募集につなげる。 B 引き続き緊急情報や行事の様子を紹介するとともに、各部活動の顧問に働きかけ、積極的に更新するよう意識を高めていく

学校関係者評価	実施日 平成30年2月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	大学受験という観点からみれば正しいのかもしれないが、間違えたことを書かない、正しいと言われていたことのみやり、踏み込んで考えない大学生がいる。間違っていないか、学ぶ姿勢に疑問を感じる。優秀なのだから、もっと主体性をもって、挑戦する姿勢をもって学習してほしい。 若い人の、論理的に考え発言する力が強くなってきていると感じる。しかし、論理が先行しすぎて他者と協働して問題解決にあたらうとする姿勢が身についていないのでは、と感じる若い人が増えた気がする。このような資質・能力(人間性等)を育ててほしい。 アクティブ・ラーニングへの対応は、時間的制約があつて不十分とのことであつたが、普通の授業の中で、前後の生徒同士の議論やグループワークを取り入れる工夫をしていた。このような形でも十分達成可能ではないか。 生徒が進路実現に向けて動き出す時に、より具体的なサポートをしていただきたい。また、放課後等の講座などの情報についての周知が足りなかった面があるようだ。情報の周知について気をつけてもらいたい。 多様な生徒への対応は大切である。教職員研修会や教育相談体制を充実させ、生徒をきめ細かく見ていくことは重要と考える。 「大宮高校は勉強が大変」とのイメージがあり、大宮高校に進学する能力のある生徒でも、他校へ進学する場合があるようである、生徒募集の面からも、情報発信に工夫があつてもよいのではないかと。 進路希望を叶えるためにはそれだけの努力が必要なのかもしれないが、生徒の実態や教員の働き方改革を踏まえて、学校の取組(質・量)について研究してもらいたい。 ホームページでの情報発信に関しては、部活動や体育祭、文化祭などの生徒会主催行事については、生徒主体(生徒会など)で行えばよいのではないかと。